

設計端を歩く 第8回 漆芸の店舗

島崎藤村著「夜明け前」の冒頭文の「木曾路はすべて山の中である」ではないが中央西線は山の深い谷の縁に沿って延びている線です。この線は旧中山道沿っていて途中の村にこの建物があり、街道には漆関係の店が並んでいます。

打合せに行くに当たってはほとんど泊りがけになりましたが、近くに木曾三岳奥村設計所木工場の施設があり、そこに泊りながら現場に行っていました。

店舗は住宅に増築という形をとり、奥の住宅の一部も改築しました。

外観を決めるにあたり、旧中山街道に建ち並んでいる建物は一階の屋根が低く抑えられ、二階がある建物は高さが低く抑えられている姿を踏襲することにし、二階部分の窓にはこの地方の特徴である外壁に太い塗籠の格子窓を設置しました。一階の外観は、内部が良く見えるように大きなガラスの嵌めこらし窓とし、建物が西向きなのでこの窓には障子を建て込んでいます。

内部は吹き抜けにし、先の二階部の格子窓からお店に明かりを取り入れました。

左側のスペースは畳敷きと大型漆の家具置き場、その奥は休憩所とレジコーナーにしています。

室内は、樺の太い柱や丁斧削りの丸太梁、床は芯持ちの樺の木レンガ敷きで、表面に漆の刷毛こき液を塗布、入口の引手は鉄棒で絹焼け付けなどとしています。

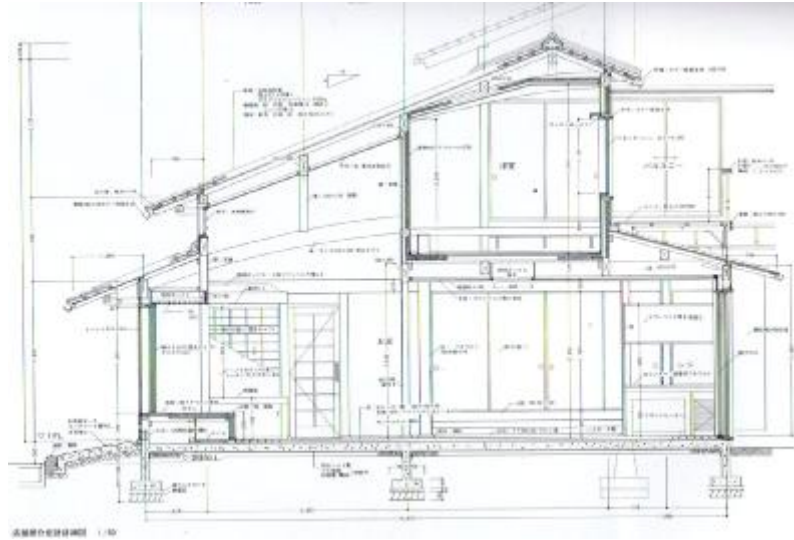
外観と内観のパースは、奥村先生の作です。



店の前にある標識は、街道で使っている形を踏襲して制作した



床は樺のレンガ敷き



矩計図 1/f



壁はじゅらく壁